

講座番号  
C039古代より封印された香り  
～埋木の魅力～

## 講座講師・内容

成田廣枝 [進化生物学研究所客員研究員]

蝦名 元 [進化生物学研究所研究員 / 東京農業大学非常勤講師]

埋木(うもれぎ)は、主として縄文時代に山崩れや火山の噴火で土中にパックされて眠っていた樹木です。万葉集にも出てくるほど古くから知られていた数千年前の埋木と、江戸時代後期に仙台で発見された数百万年前の亜炭性埋木との違いを古文書や国語辞典類で紐解きましょう。パックされた環境や埋没期間によって変化する埋木の香りの違いを体感しましょう。香道の最高級とされる埋木灰もお見せします。日本各地の主な埋没林の博物館についてもご紹介します。さらに、ニュージーランドでの、大木カウリ(ナンヨウスギ科)の埋木の豪快な発掘作業もビデオでご紹介します。自然のなせる技のスケールを実感しましょう。



埋木(茶色:木質性「神代杉」、黒色:亜炭性「仙台埋木」)と香り実験用香炉

## カリキュラム

※講座内容、日程は変更になる場合があります。

1/12(土) 10:30~12:30

## 詳細

会場: 東京農業大学「食と農」の博物館

受講料: 2,000円

定員: 20名(対象: 18歳以上)

申込期間: 9月7日(金)~9月27日(木)

※定員を超えた場合は抽選になります。